

第2回「育て！プリントコミュニケーション」コンクール 上位入賞作品から見た 読まれる「通信」とは。(上)

前号(2006年秋号)では、第2回「育て！プリントコミュニケーション」コンクール(主催：理想教育財団)で最優秀賞を受賞した食育広報紙「元気もりもり通信」について詳しくご紹介しましたが、本号と次号では、その他の上位入賞作品(優秀賞・審査員特別賞・審査員奨励賞)をもとに、「読まれる通信」に必要なものは何かを探っていきます。

今回、コンクールで審査員を務めた文教大学の平沢茂教授は、「伝えようとする内容の教育価値や効果、その内容を伝えるための工夫」を、また立教大学の冨安敬二教授は、「読む気になる紙面構成かどうか」を、それぞれ評価のポイントとしたと指摘しています。

内容とともに、読者を「読む気にさせる」紙面構成であることが大切という点が共通しています。

本号では、読まれる通信にはどのような工夫が必要か、学校通信・学級通信にしぼって、記事の内容と取り上げ方、ビジュアルの両面から考えていきます。

注目される記事

通信の紙面は次のようなもので構成されています。

- ① 通信名・号数・発行日・発行者
- ② 見出し
- ③ 記事本文
- ④ 写真・イラスト・カット
- ⑤ 図・表・グラフ
- ⑥ 子どもの作品、保護者の文章など
- ⑦ 新聞・雑誌などからの引用資料

まず、記事の内容で注目されたものを上げますと、「きめ細やかな情報の提供」があります。

●沖縄県立西原高等学校の 学校通信「西高通信」



沖縄県立西原高校『学校通信・西高通信』は玉城崇校長自ら日刊の通信に取り組み、「生徒の活動からユースまで、こまめに記事に」(松井孝二審査員)しています。

宇治市立北宇治中学校『学校便り』では、特に学校行事の予告と結果をきちんと載せて、「学校の教育活動が手に取るようにわかる」(鈴木伸男審査員)と高評価を得ました。また同校の芦田定雄先生は「生徒に元気が出る学校便りとして、部活動は必ず載せている」と言います。

「先生、生徒がたくさん登場すること、紙面に活気と親近感を与えると好評です。岡崎市立生平小学校『学年通信・ドラミング』では、「生徒の作文も全員のものを丁寧に掲載している」(吉成勝好審査員)と評価を得ました。同紙は、通算28回に及ぶコラム「野鳥との出会い」のほか、学芸会、運動会などの行事を

●岡崎市立生平小学校の 学年(学級)通信「ドラミング」



「事前・事中・事後としつこいくらい継続的に取り上げている」(吉成審査員)と「記事の継続性」でも注目されました。

先生方が交代で書く連載ものが注目されたのは、岡崎市立矢作西小学校『学校通信・江西』です。同紙は開校80周年を機に企画された「卒業生(保護者)からの寄稿」も好評。同校の鈴木一先生は「各家庭で、子どもとの会話が弾んだとの反響が

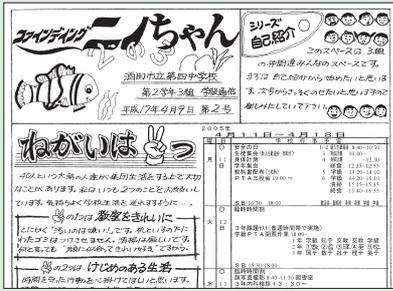


●宇治市立北宇治中学校の「学校便り」

あった」と言います。

「授業の構想」を掲載したのは那賀町立木頭小学校『学級通信・サンキュー』と『学校通信・江西』です。『学級通信・サンキュー』では「学習マニフェスト」「生活マニフェスト」を載せ、日々の学習の過程や課題そのものを紹介しています。

市川市立南行徳小学校『学校通信・せせらぎ通り』では担当の武藤和彦先生が「できるだけ足を使って現場に向く」臨場感ある記事で好評を得ています。



●酒田市立第四中学校の学級通信「ニノちゃん」(右上が自己紹介コーナー)

3年生 2学期
学習マニフェスト

最近、マニフェストという言葉をよく耳にするでしょ。知っている人！は～い()人。そうです。選挙のニュースでよく聞く言葉ですね。こんなことをします！と宣言(せんげん)することです。

3年生では、2学期の学習で次のことをやると宣言します。

- ① はなまる漢字を毎回「合格」になるまで書かせます。
- ② 百マス計算のタイムを全員2分30秒以内にさせます。
- ③ 自分の日記を毎日パソコンで入力できるようにさせます。
- ④ 2学期中に、本を20冊以上読ませます。

●那賀町立木頭小学校の学級(学年)通信「サンキュー」のマニフェスト



●金武町立金武中学校の学校だより「不撓不屈」

ビジュアル処理の工夫

ビジュアルの扱いも、読む気にさせる重要な要素です。

題字周りの処理で注目されたのは、酒田市立第四中学校『学級通信・ニノちゃん』で、「自己紹介コーナー」「将来の夢コーナー」などとして使い、1号あたり1人、全員が登場するようにしています。手書きですが、行間を読みやすいように開け、一部パソコン処理の囲み記事も入れて読みやすい工夫がされています。

見出しでは、金武町立金武中学校『学校だより・不撓不屈』が、伝えたいことを大胆に見出しにしています。囲み記事などを効果的に使った、すっきりしたレイアウトが「読みやすい」と好評。同様に岡崎市立根石小学校『学級通信・以心伝心』も、シンプルなレイアウトに、一目でわかる見出し。

かる見出し。吉成審査員は「担任が熱く語りかけている」ことが伝わる紙面と評価しています。

上位入賞15作品の中で、手書きによるものは2作品。宇治市立西宇治中学校『みんな主人公』もその一つで、林原茂先生の手書きです。

ここでの注目は林先生が描く四コマ漫画。「趣味と実益」と言いますが、クラスの全生徒を1回以上登場させると決め、教室での会話に注意してつくりまわす。カットにも生徒がたくさん登場。ほかにも囲み記事をじょうずに利用して、できる限り読みやすくという工夫がうかがえます。

●岡崎市立生平小学校の学校通信「生平小だより」



また、『学校通信・生平小だより』の写真は子どもたちの表情を紙面の半分近いスペースで紹介し、アングル・構図・子どもの表情のよさ、季節感の豊かさで高評価を得ました。

●第3回「育て！プリントコミュニケーション」コンクールの応募作品を募集中です。詳しくは、財団ホームページ <http://www.riso-for.jp/> をご覧ください。また、ここで紹介した作品をはじめ、上位入賞者31名の作品と活動報告、講評などを掲載した入賞作品集(A4版・カラー・148頁)を差し上げています。お申込み方法はホームページに掲載しています。また、申込み書には「季刊理想を見た」と明記してください。



●岡崎市立矢作西小学校の学校通信「江西」

* 学校名・役職は応募時点のものです。